日教組青年部ニュース２００６　日本教職員組合青年部　２００６年９月１９日

やっぱり青年部！　№２

青年部大会をゆく！やっぱり集まることは大事だ！！

各単組青年部で青年部大会（総会）が開かれました。たいへん、ご苦労様です。

とりくみの交流などを含めて、各県の大会でだされた青年の声やとりくみ、青年部長の感想などを紹介します。「平日開催だと人が集まらない。」「意見や討論がなかなかでない。」というような悩みがだされています。青年部の大会（総会）って何だろうか？という原点から考えてみることも必要なのかもしれません。大会に限らず、青年部行事が「ありき」になってしまっているところもあります。ある単組青年部の大会で、青年部長が、「この大会が成功といえるために、ここに出席した代議員一人ひとりが何か１つでも持ち帰ることのできるものにしたい。」と宣言しました。「なぜ、集まるのか。」「なぜ、開催するのか。」をもう一度、身近な仲間と確認して、「こんな大会にしたい。」という思いをみんなと共有していくことが大切だと感じました。

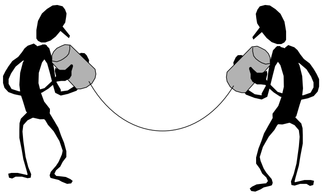
（苦労しながら）開催された大会では、青年の仲間たちの厳しい実態や思いが方針提起や討論の中で出されました。職場の中で、「教えあい」がなくなってきている実態があります。それだけに青年の仲間にとって大会での提起や討論は、かけがえのない「気づき」の場ともなっています。一人分会が増えています。それだけに、仲間同士で顔をあわせて、思いを確認する場の意義は大きくなってきています。

各単組青年部大会（総会）①

全国の大会（総会・委員会）に出席させてもらいました。お世話になりました。その見聞録として、各単組の様子を紹介します。

開催の工夫

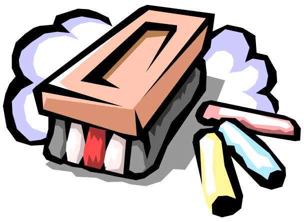
平日の開催にこだわっている単組も多くあります。しかし、午前中からの開催では集まりにくいことから、14時や午後からの年休で県下から集まれるよう16時



から開会にしているところもあります。また、勤務が終って、19時からと少しハードなところもあります。少し時間を下げて開催した単組のもう一つの狙いが、「折角集まったんだから、懇親会もセットでじっくり語り合おう！」ということのようです。すべての代議員としているところもあれば、県常任委員や支部青年部長を対象としているところもあります。その大会で決定したことを、共有しながら歩んでいくことを確認しあう意味の大きさを感じました。

学習会や歓迎レクレーションと同時開催の単組も

あります。折角集まったんだから、「少しでも多くのことを知ってもらいたい。」「青年部のよさを感じてもらいたい。」という思いで。(私もいくつかの単組で「今こそ青年部が必要です…」といった内容で、つたない話をさせていただきました…。)



分科会・分散会を設定して、さらに方針を強化するとりくみを行っているところもあります。テーマは、部活動や職場、クラス、組織拡大強化など、現場から見えてくる課題をいろんな視点から議論されています。参加した仲間が受身ではなく、「発信」することの大切さを感じました。大会方針は、「広い世界」を語ることが多くなりがちです。そんな方針を現場と結びつける意味でも、意義のあるとりくみだと感じました。

討論にこだわっている単組もあります。支部で内容を検討し実態やとりくみを報告したり、全ての支部からとりくみや自分の職場の状況を報告したり、さらには出席者全員、(強制的に?)討論に参加してもらうところもありました。時には、執行部側から代議員のある人に目でサインが送られることも…。討論を通じて、「一人の思いをみんなのものに」なることは間違いありません。

開催の形式は様々ですが、「青年部のよさを感じてもらいたい」「もっと青年の仲間たちを元気付けたい」というのが多くの青年部長の思いではないでしょうか。

討論・青年部長あいさつより

各単組の大会での討論や意見、青年部長あいさつなどでだされたものの一部を紹介します。

気づきが少なくなっている…

メーリングリストを作成して情報交換している。1人分会になって、「気づき」も少なくなっている。ますます、組合からの情報提供が大切になっている。

何か学びたいと思って…

青年部長が挨拶で「集まってもらって申し訳ない」と言ったけど、そんなことはない。どんな話がだされるか楽しみにしてきているし、何か学びたいと思って私たちは集まっている。

青年が伝えることができた…

支部役員でオルグを行った。「なぜ、組合に入ったか」「組合に入っての喜び」そして、青年部の活動、職場での活動を話した。各分会で伝えらないことを、青年部のオルグを通じて伝えることができた。

共感・協働・共生…

職場で仲間と思いを語ることが大切。その人に共感することで、協働の意識が生まれ、共生へとつながっていく。

子どもたちも多忙…

職場の中で価値観の違いを感じる。職員の連携がうまくいっていない中で、子どもたちも忙しくなっている。私たちも子どもたちをせかしているのではないか。いろんな事件は、こんな子どもたちの余裕のなさから起こっているのでないだろうか。

教え子を再び…のスローガン…

私たちは、戦争を知らない世代。その戦争を知っている人たちがつくったスローガン「教え子を再び戦場に送るな」を大事にしていかなければならない。

新採用者の権利を守っていくために…

新採用者の権利を保障していくために、少しでも早く組合に入ってもらわなければ。そのことを知ってもらうのが、「身近な先輩」としての青年部の役割ではないでしょうか。

育休をとって…

育休をとって、学校の働き方が異常であることに気づいた。昨年、教室で自死する仲間がいた。部活の指導する途中で亡くなった仲間がいた。時がたてば忘れてしまいがち。働き方を点検していかなければならない。今日から一歩ずつ前にすすんでいきたい。

最初は引いていた未組の人…

職場の中で、組合から距離をとっていた未組織の人。青年部の行事に誘ってみた。何度か誘っているうちに参加してくれた。青年部というと気楽にとらえてくれる人も多い。自信をもって誘おう！

努力していかなければ…

評価制度が入ってきた。職場一人ひとりが孤立していっている状況の中で、非常に怖い制度だ。無意識のうちに互いを評価しているところがあるので、この制度が定着すれば、職場の仲間が分断されていく。この状況を乗り越えていくためには、話をしていかなければならない。でも、話すらできていない職場の中で、「話をする努力」をするときだと思う。

自己責任…

初任研の傍聴にはいった。高い倫理観、世間の目は厳しいと使命感の育成の場だと感じた。「世間の目は厳しい」と何度もいう。また、「パソコンはみなさんのものですが、データはみなさんのものではない。何かあれば責任が問われますよ。」と。すべて自己責任であると言わんばかりの行政の姿勢に腹が立つ。

働き方が変わった…

仕事・部活、そして組合と何時までも、どこまでもやってきた。しかし、子どもができて、「早く帰りたい。」と思うようになった。勤務時間を少し意識するようになり、働き方が変わってきた。

疲れていることに気づいていない仲間…

地域への移行がなかなかすすんでいない。目の前には子どもたちがいる状況で、私たちはやらなければいけない状況。土日もない日々の中、職場の人がつかれていないだろうか。本人はプレッシャーややりがいで疲れていることに気づいていないこともある。横のつながりでカバーしていかなければないないと思う。

取れていない青年の回復…

青年は実際に回復がとれていない実態がある。後18週までとれるようになったところもある。年輩の組合員からは、「そこまで伸ばすと、回復ではない」という言葉に青年は黙ってしまう。黙ってしまわず、青年の健康を守っていくために、議論していかないといけない。

各単組からの報告より（６月実施のアンケートより）

■日教組青森■　春の青年部学習会との同時開催。未組合員（新採）の参加もあり、活気ある集まりとなった。

■岩手県教組■　以下のような討論がだされました。

時間外勤務の実態を記録することが大切。勤務時間をつけきる取り組みを。

賃金も足りず、我慢している。自分の忙しさとともに子どもたちも忙しさの中に置かれている。学校がこの社会を変える素地を持っている。

支部青年部による分会訪問を行うことができた。分会訪問を機に、訪問した分会のオヤも継続した声掛けを行い、加入につながっている。

■山形高教組■　青年委員長からは、「青年層教員の生涯賃金は1,000万円以上減るということなど、賃金についてもっと関心を持つ必要がある。」という、提案がありました。

総会の前に青年教職員セミナーを開催。今年度は、内田良子先生（教育総研）を講師に、「心の不安定な子どもたちとどう向き合うか」という題で、講演とワークショップを行い、好評でした。

■福島県教組■　多忙さ、仕事のきつさを口にする人が多かった。そんななかでも青年部で歓迎集会を企画する等の話が出てきている。沖縄の平和行進についてのレポートもあり内容的には充実していた。しかし、定期大会そのものへの参加についても厳しい現状が話し合われた。

■茨城県教組■　多くの仲間とつながり、連帯を積極的に進めることを確認した。また議事の中で、昨年度に引き続き官制研修や部活動問題に対してのとりくみを強化することを確認した。

■千葉県教組■　若さあふれるエネルギーのある大会だった。討論の中では、「業績評価導入反対」「地域手当格差是正」「組織強化・拡大」「教育基本法改悪反対」など幅広い意見が出された。

■山梨県教組■　活発な議論が交わされた。定期大会でだされた主な意見は、期限付採用、臨臨時採用市町村負担の職員の待遇改善や正規採用に向けたとりくみの要求、教職員住宅の各種要求、今年度の活動に対しての要望等だった。

■長野県教組■　定期大会ですが、大会だということにこだわりすぎず、壁いっぱいに模造紙資料を掲示したり学習することを大切にしながら県常任で分担して事案の提案をしました。また、支部からは50本以上もの発言があり、活発な大会になりました。

福岡県教組の「福教組フェスタ」の案内をいただき、その前日の夕方、大分に帰りました。半年振りに在籍校にあいさつに行きました。意外に（？）あたたかく声を掛けてもらって少しホッとしました。反面、４人の病休者がでていることを知りました。

育休明けで現場復帰したばかりの私と同い年の同僚と話をしたのですが、「復帰したばかりで、必死な毎日。たまには、職場の人と飲みに行ったり、他の友人と話をしないとと思うけど、学校のことで精一杯、家に帰っても精一杯。いつも気が張っている状況で、○○さん（休職に入った人）のこと気づかなかった…。」と。別の同僚も、「分掌のことや部活のことで、家族と全く過ごすことができてなく、家庭が難しい状況なんだ…。」と。

このような状況の中で苦しんでいる仲間たちは多いのではないでしょうか。どうすれば、変わっていくでしょうか。制度の改善だけでなく、もっと根本的な「社会のあり方」から考えていかなければならないような気がします。是非、青年部で議論してみてください。　　　　（文責:青年部長　賀来）

<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<

日教組青年部へのお問い合わせはこちら

※鹿教組ＨＰ問合せ先にお寄せください。転送します。

>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

◇お知らせ：

日教組青年部第２回委員会　１２月１７日（予定）